日本産業衛生学会
近畿地方会ニュース

発行所　日本産業衛生学会近畿地方会（事務局）
〒634-8521 奈良県橿原市四条町840
奈良県立医科大学地域健康医学教室内
専用TEL・FAX.0744-22-1801
発行責任者・車谷典男（地方会会長）
http://jsohkink.umin.jp

第62回近畿地方会総会および特別講演・シンポジウムのご案内

日本産業衛生学会近畿地方会　会長　車谷典男

以下のとおり開催いたします。多数の会員のご参加をお待ちしております。

日　時：平成26年６月21日㈯ 13：10 ～ 17：00
会　場：大阪市立大学医学部学舎４階大講義室　☞6ページ

【地方会総会】（13：10 ～ 13：50）
【特別講演・シンポジウム】（14：00 ～ 17：00）
テーマ：「ビッグデータ時代の産業保健」

世の中は、オンラインショッピングの購入履歴やブログ・エントリー歴、FacebookやTwitterなどSNSに書き込まれるプロフィールやコメント等のデータ、動画や音声などのマルチメディアデータ、GPSやICカードによる位置、乗車履歴などの膨大なデータから、事業に役立つ知見を導出しようとする「ビッグデータ」時代を迎えています。

一方、産業保健の分野では個人情報保護の問題や医療者・衛生管理者の守秘義務の壁があり、少なくとも事業者間で健診データを有効活用することはほとんどなかったと思われます。そんな中で、2008年度に始まって6年になる特定健診・保健指導で各健康保険組合に蓄積された健診データと、近年デジタル化が進んでいるレセプトデータとを分析して、被保険者の健康保持増進・生活習慣病予防事業を策定・実施し、医療資源を効率的に活用しようという「データヘルス計画」が進行しています。

また、少子高齢化や定年延長に伴い従業員の平均年齢が上昇することにより重大疾患が増える懸念があります。厚生労働省の「集団特性に応じた効果的な保健事業のあり方に関する研究」によると１万人規模の企業では年間10数名の重症疾患が新規に発症しているものの、発症者の３分の２は未治療（未受診）であることもわかりました。従業員は企業にとって最も重要な経営資源であり、従業員の健康づくりを進めることが企業の成長戦略においても欠かせない時代になってきています。経営者が従業員とコミュニケーションを密に図り、従業員の健康に配慮した企業を戦略的に創造することによって、組織の健康と健全な経営を維持していこうという「健康経営」の理念が注目されています（「健康経営」は特定非営利活動法人健康経営研究会の登録商標です）。

このような時代背景の中で産業保健スタッフが従業員や経営者にどのように向き合い、企業の経営戦略の柱の一つに産業保健の充実を掲げていくのかを念頭に「ビッグデータ時代の産業保健～健康経営を意識した取組み～」を今年度の総会テーマにしました。多くの会員の皆さまのご参加と活発なご討論を期待します。

特別講演
「職域における健康づくりの潮流～国家戦略の動向から～」
演者：
東京大学医学部附属病院22世紀医療センター 助教/
ヘルスケア・コミッティー株式会社 代表取締役　古井祐司 先生
座長：
兵庫医科大学公衆衛生学教授　島　正之 先生

シンポジウム
「ビッグデータ時代の産業保健～健康経営を意識した取り組み～」
演者：
三井化学株式会社大阪工場 健康管理室 産業医　井手　宏 先生
EMGマーケティング合同会社 医務産業衛生部 保健師　荒木郁乃 先生
パナソニック健康保険組合 健康管理センター
健康管理支援部 チームリーダー　鍛治舎穣 先生
座長：
日本アイ・ビー・エム㈱人事　鈴木純子 先生
パナソニック健康保険組合 健康管理センター所長　伊藤正人 先生

＜参加費＞
日本産業衛生学会（産衛学会）員：無料
産衛学会員で日医認定産業医単位希望者：3,000円
非産衛学会員：2,000円
非産衛学会員で日医認定産業医単位希望者：5,000円

＜単位申請＞
１.日医産業医認定研修会３単位(申請中)
２.産業看護実力アップコース２単位（申請中）

平成25年度近畿地方会収支報告および平成26年度予算（案）

1．収入の部

科　　目	25年度予算額	25年度決算額	26年度予算額	摘　要
（1）会費収入	2,200,000	2,286,000	2,200,000	
地方会活動費	1,900,000	1,714,000	1,900,000	2,000円×857人
特別会員会費収入	300,000	572,000	300,000	総会特別講演等当日参加費
（2）助成金収入	1,890,000	1,878,000	1,890,000	
日本産業衛生学会助成金収入	1,890,000	1,878,000	1,890,000	1,500円×1,252人
本部選挙交付金	0	0	0	
（3）事業収入	180,000	240,000	120,000	
広告料収入	180,000	240,000	120,000	広告回数減のため
（4）その他収入	500	655	400,500	
受取利息	500	655	500	
役員選挙積立金より	0	0	400,000	
当期収入合計	4,270,500	4,404,655	4,610,500	
前期繰越収支差額	3,411,856	3,411,856	2,373,920	
収　入　合　計	7,682,356	7,816,511	6,984,420	

2．支出の部

科　　目	25年度予算額	25年度決算額	26年度予算額	
（1）事業費	3,450,000	2,680,334	3,450,000	
①機関誌費	1,300,000	1,018,996	1,350,000	
印刷費	500,000	504,016	550,000	
広報活動費	150,000	0	150,000	
通信運搬費	650,000	514,980	650,000	
②助成金支出	1,400,000	1,100,000	1,300,000	
近畿産衛学会開催助成金支出	500,000	500,000	500,000	
産業医部会助成金支出	150,000	150,000	150,000	
産業看護部会助成金支出	150,000	150,000	150,000	
産業技術部会助成金支出	150,000	150,000	150,000	
研究会補助金	300,000	150,000	200,000	50,000円×3部会
研修会補助金	150,000	0	150,000	
③例会事業費	750,000	561,338	800,000	
地方会総会開催費	500,000	501,338	550,000	
学術担当費	250,000	60,000	250,000	
（2）管理費	1,370,000	1,362,257	2,090,000	
①運営費	520,000	612,837	1,490,000	
幹事、代議員会費	120,000	168,300	180,000	
広報渉外費	300,000	325,000	350,000	HP関連
役員改選費	0	0	800,000	
通信運搬費		57,337	60,000	
運営雑費	100,000	62,200	100,000	幹事会交通費
②事務費	850,000	749,420	600,000	
事務局費合計	500,000	500,000	500,000	
備品	250,000	229,215	0	PC更新費用
消耗品費	100,000	20,205	100,000	
（3）その他支出	400,000	400,000	0	
役員改選積立金支出	400,000	400,000	0	26年度実施予定の積立金
（4）事業積立金	1,000,000	1,000,000	1,000,000	
日本産業衛生学会開催準備金	500,000	500,000	500,000	
産業医・産業看護全国協議会開催準備金	500,000	500,000	500,000	
（5）予備費	500,000	0	500,000	
当期支出合計	6,720,000	5,442,591	7,040,000	
当期収支差額	-2,449,500	-1,037,936	-2,429,500	
次期繰越収支差額	962,356	2,373,920	-55,580	
支　出　合　計	7,682,356	7,816,511	6,984,420	

財産目録　(1)ノートパソコン　Let's noteSX2法人モデル　(2)FAX（0744-22-1801）Panasonic　1台

25年度の会計年度は平成25年3月1日から平成 26年2月28日まで。

平成25年度近畿地方会事業報告（案）

1．第61回近畿地方会総会および基調講演・シンポジウム

日時：平成25年6月15日(土)　13：10 ～ 17：00
会場：大阪市立大学医学部学舎

Ⅰ．総会（13：10 ～ 13：50）

5月15日現在の地方会員数は1,345名、出席者70名（委任状429名）で、会員の5分の1以上の出席により総会は成立（地方会会則第18条）。平成24年度の事業報告・収支決算報告と監査報告および平成25年度の事業計画案・収支予算案を承認。

Ⅱ．学術講演会

1)特別講演（14：00 ～ 15：00）

座長：伊木雅之（近畿大学医学部公衆衛生学教授）
講師：石井真人（厚生労働省大阪労働基準局労働基準部健康課主任労働衛生官）「第12次労働災害防止計画にみる労働衛生の課題」

2)シンポジウム（15：00 ～ 17：00）

「産業衛生のUnmet Need－特に中小企業の労働安全衛生における現状と対策－」
座長：久保田昌詞（大阪労災病院勤労者予防医療センター部長）・鮫島真理子（大阪・兵庫産業保健推進センター相談員）
演者：①形部保夫（元中央労働災害防止協会近畿安全衛生サービスセンター安全・衛生管理士）「中小企業を中心とした安全衛生診断の経験から」、②須藤弘子（全国印刷工業健康保険組合近畿支部保健師）「総合健康保険組合における被保険者の健康サポート－訪問事後指導を中心とする活動報告－」、③益江淑子（北大阪地域産業保健センター保健師、㈱健康管理室代表取締役）「北大阪地域産業保健センターの現状と課題」、④仲田昭弘（奈良産業保健推進連絡事務所メンタルヘルス担当相談員、ならこころのクリニック院長）「中小企業におけるメンタルヘルス対策支援－奈良産保での現状把握と課題－」、⑤藤森次勝（大阪府医師会産業医部会副部会長、藤森クリニック院長）「小規模事業場に対する地域産業保健事業の現状と将来」

2．第53回近畿産業衛生学会

（参加者215名・うち学会員151名）
日　時：平成25年11月2日(土)　10：00 ～ 17：00
会　場：京都大学医学部・芝蘭会館稲盛ホール/山内ホール、京都大学医学部構内Ｇ棟セミナー室Ａ
学会長：中山健夫（京都大学大学院医学研究科社会健康医学系専攻健康情報学分野教授）

1)一般講演30題
2)基調講演「有病者の就業支援」
立石清一郎(産業医科大学産業医実務研修センター)
3)シンポジウム「病気を持ち、働く人々の支援に向けて」
座長：古木勝也（至誠会古木内科医院）
村田理絵（京都工場保健会）
演者：①堀松高博（京都大学病院臨床研究総合センター/腫瘍薬物治療学講座）「働く世代のがん治療の実際について」、②八田告（八田内科医院・近江八幡市立総合医療センター腎臓センター）「腎臓病を抱える労働者を考える」、③細越寛樹（畿央大学教育学部現代教育学科）「マインドビクスによる就業支援：閾値下抑うつ状態の企業人に対する電話を用いた認知行動療法」、④川畑真理（大日本スクリーン製造）「私傷病による休職者の職場復帰支援について－会社での取り組みについて－」

3．代議員会

第１回：平成25年6月15日(土)
大阪市立大学医学部学舎
第２回：平成25年11月2日(土)
京都大学医学部構内Ｇ棟セミナー室Ａ

4．幹事会

第１回：平成25年6月15日(土)
大阪市立大学医学部学舎
第２回：平成25年9月6日(金)
大阪市立大学附属病院会議室
第３回：平成25年11月2日(土)
京都大学医学部構内Ｇ棟セミナー室Ａ
第４回：平成26年2月25日(火)
大阪市立大学附属病院会議室

5．広報活動

近畿地方会ニュースを年４回（94号～ 97号）発行した。毎号12頁から構成し、全地方会員と関係者に郵送した。近畿地方会のホームページを随時更新した。

6．近畿産業医部会

(1)第18回近畿産業医部会研修会（参加者155名・うち学会員30名）
日時：平成25年9月7日(土)　14：00 ～ 17：00
会場：大阪市立大学医学部学舎４階大講義室
実行委員長：上原新一郎（大阪市立大学大学院医学研究科産業医学）
テーマ：産業保健におけるエビデンスに基づくアプローチ

1)基調講演「産業保健における疫学の基礎」
座長：伊藤正人（パナソニック健康保険組合健康管理センター）
講師：林朝茂（大阪市立大学大学院医学研究科産業医学）
2)シンポジウム「産業保健における健康データの活用～日常業務での取組み～」
座長：久保田昌詞（大阪労災病院勤労者予防医療センター）、上原新一郎（大阪市立大学大学院医学研究科産業医学）
シンポジスト：篠原將貴（パナソニックオートモーティブ＆インダストリアルシステムズ社西門真健康管理室）「日常の健診データからエビデンス作成まで」、蓮尾淑江（NTT西日本関西健康管理センター）「日常の健康管理へエビデンスの活用」、伊藤ゆり（大阪府立成人病センターがん予防情報センター）「地域がん登録の紹介と産業保健のコラボレーションの可能性」

⑵研修会・ケースカンファレンス
産業医職場診断を計4回（平成25年9月14日・10月10日・11月9日・12月7日）、職場巡視を計5回（平成25年6月22日・7月13日・8月10日・10月19日・平成26年1月18日）にそれぞれ開催し、各々延べ36名、130名の参加があった。

7. 近畿産業看護部会

Ⅰ．定例研修会
1)第１回定例研修会
日時：平成25年7月13日(土)　13：30 ～ 16：30
会場：エルおおさか本館7階708号室
テーマ：統計パートⅡ「事例を用いて学ぶ統計の基礎」
講師：久井志保（兵庫大学健康科学部看護学科専任講師）
参加人員：85名（学会員66名・非学会員19名）
2)第２回定例研修会
日時：平成26年1月25日(土)　13：00 ～ 17：00
会場：エル・おおさか南館
テーマ：Ⅰ.産業看護のコーディネート機能活用術
Ⅱ.産業看護部会活動の方針説明―産業看護継続教育の新制度について―
講師：五十嵐千代（東京工科大学医療保健学部看護学科教授）
参加人員：76名（学会員70名・非学会員6名）
Ⅱ．特別研修会
日時：平成25年8月31日(土)　13：00 ～ 16：00
会場：兵庫大学コンピュータ室
テーマ:統計実習「エクセルを用いての統計演習」
講師：久井志保（兵庫大学健康科学部看護学科専任講師）
参加人員：27名（学会員22名・非学会員5名）
Ⅲ．幹事会
４回開催（平成25年4月20日、7月13日、10月19日、26年1月25日）

8. 近畿産業衛生技術部会総会及び講演会(参加者20名)

日時：平成26年2月9日(日)　13：00 ～ 16：30
会場：ユーズ・ツウ（大阪市内の貸会議室）
講演会：1)生熊雅夫（元NHKアナウンサー）「上手な会話とアナウンサーの職業とは」（司会：常瑠璃子・JICA関西）、2)浅香尚民（新コスモス電機株式会社）「作業環境測定に用いられる測定器」（司会：山室堅治・中災防大阪センター）

9. 研究会活動

⑴産業精神衛生研究会
第１回
日時：平成25年6月10日(月)　18：30 ～ 21：00
会場：エル・おおさか本館708号室（参加者184名）。
テーマ:「大人のアスペルガー症候群の対応－その2」
座長：廣部一彦先生（みずほフィナンシャルグループ開発センター）
演者：夏目誠「特別講演に備えて－大人のアスペルガー症候群の2事例への対応－」
特別講演：竹田契一(大阪医科大学LDセンター所長)「発達障がいへの理解と対応」
第２回
日時：平成25年11月29日(金)　18：00 ～ 21：00
会場：エル・おおさか本館709号室（参加者98名）
テーマ：パーソナリティー障がいへの対応、その2
座長：廣部一彦先生（みずほフィナンシャルグループ開発センター）
基調講演：夏目誠(大阪樟蔭女子大学大学院教授)「現場活用を目指して－事例から知る対応の実際－」
トークセッション：夏目vs谷口智子（富士通㈱関西健康推進C長）、夏目vs藤吉奈央子（近畿労働金庫）
⑵職業性筋骨格系障害研究会
平成25年9月14日(土)　チサンホテル新大阪
第11回作業関連性運動器障害研究会「人間工学の応用と『腰痛予防対策指針』の活用」
第１部
講演とワークショップ「人間工学の実践応用：介護職場改善を例に」
座長：宇土博（広島文教女子大学）
講演：小木和孝（労働科学研究所主管研究員）
第２部
シンポジウム「改訂された腰痛予防対策指針をどう職場で活かすか」
座長:垉田和史（滋賀医大）、三橋徹（田島診療所）
シンポジスト：舟橋敦（マツダ株式会社健康推進センター）、北原照代（滋賀医大）、保田淳子（日本ノーリフト協会）
⑶じん肺研究会：開催せず
⑷労働衛生法制度研究会：休会中
⑸近畿臨床産業医学フォーラム
第13回（MSD株式会社共催）
日時：平成25年3月22日（参加者約100名）
会場：ホテルモントレ大阪
テーマ：職域で見過ごされてきたHIV感染症対策を考える
第14回（グラクソ・スミスクライン共催）
日時：平成25年9月4日（参加者約120名）
会場：ホテルグランビア大阪20階名庭
テーマ：熱帯・亜熱帯地域への渡航者と感染症
第15回（MSD株式会社共催）
日時：平成26年2月12日（参加者約100名）
会場：ANAクラウンプラザホテル大阪
テーマ：職域における高血圧対策

10. 協賛事業

第16回海外勤務者健康管理研修会（共催：㈳大阪府医師会、大阪産業保健推進センター）
日　時：平成25年10月26日
会　場：コンファレンスプラザ大阪御堂筋
テーマ：マラリアワクチン、海外勤務者のための海外医療機関・医療保険

11. 第3回近畿産業衛生学会優秀演題賞の表彰

津野香奈氏（和歌山県立医科大学医学部衛生学教室）ほか「困難に立ち向かう力（レジリエンス）が高い労働者の特徴と心理的ストレス反応との関連：1年間の前向きコホート研究」、人見敏明氏（京都大学大学院医学研究科環境衛生学分野）ほか「スリランカ農民の慢性腎臓病」

（本文中敬称略・肩書等は原本掲載時通り）

平成26年度近畿地方会事業計画（案）

1. 第62回近畿地方会総会および学術講演会

日時：平成26年6月21日(土)　13：00 ～ 17：00
会場：大阪市立大学医学部学舎
Ⅰ．地方会総会
Ⅱ．学術講演会

2. 第54回近畿産業衛生学会

日時：平成26年11月15日(土)
会場：近畿大学東大阪キャンパス20号館・21号館
学会長：伊木雅之（近畿大学医学部公衆衛生学講座教授）
Ⅰ．一般講演（午前）若手奨励賞選考
Ⅱ．特別講演「職場から少子化対策を考える」
山縣然太朗　山梨大学大学院医学工学総合研究科社会医学講座教授
Ⅲ．シンポジウム　産業保健から見たワークライフバランスをテーマに開催
Ⅳ．懇親会　近畿大学本部キャンパス内で開催

3. 代議員会

第１回：平成26年6月21日(土)
大阪市立大学医学部学舎
第２回：平成26年11月15日(土)
近畿大学東大阪キャンパス21号館

4. 幹事会

第１回：平成26年6月21日(土)
大阪市立大学医学部学舎
第２回：平成26年8月
大阪市立大学医学部学舎
第３回：平成26年11月15日(土)
近畿大学東大阪キャンパス21号館
第４回：平成27年2月
大阪市立大学医学部学舎

5. 広報活動

近畿地方会ニュースを年４回（98号から101号）発行予定。地方会ホームページを随時更新し、地方会会員に迅速に情報を提供する。

6. 近畿産業医部会

(1)第19回近畿産業医部会研修会
日時：平成26年9月20日(土)　14：00 ～ 17：00
会場：大阪市立大学医学部学舎4階大講義室
実行委員長：古西満（奈良県立医科大学健康管理センター）
主題：海外勤務者の安全と健康を考える
(2)研修会・ケースカンファレンス（共催：大阪府医師会、大阪産業保健総合支援センター）
産業医職場診断4回、職場巡視5回を予定

7. 近畿産業看護部会

(1)定例研修会
第1回
日時：平成26年7月予定
会場：エル・おおさか
主題：検討中
講師：未定
第2回
日時：平成26年12月予定
会場：エル・おおさか南館5階大ホール
主題：検討中
講師：未定
(2)産業看護講座「短縮Ｎコース」開催
日時：3月14日(金)、15日(土)、21日(金)、22日(土)
10：00 ～ 17：30
会場：エル・おおさか本館5階視聴覚室
(3)幹事会：年4回（4月19日(土)・7月・10月・12月）予定

8. 近畿産業衛生技術部会

平成27年2月に総会・講演会を開催予定

9. 研究会活動

(1)産業精神衛生研究会
第1回
日時：平成26年5月29日(木)　17：00 ～ 21：00
会場：エル・おおさか
第2回
日時：平成26年9月5日(金)　17：00 ～ 21：00
会場：エル・おおさか
(2)職業性筋骨格系障害研究会
「改訂腰痛予防対策指針」をテーマに開催予定
(3)じん肺研究会：1回開催予定
(4)労働衛生法制度研究会：休会中
(5)近畿臨床産業医学フォーラム
第16回
日時：平成26年9月3日(水)
会場：京都市内を予定
第17回
日時：平成27年2月4日(水)
会場：大阪市内を予定

10. 協賛事業

海外勤務者健康管理研修会（共催：㈳大阪府医師会、大阪産業保健総合支援センター）平成26年10月に開催予定

11. 第４回近畿産業衛生学会優秀演題賞の選考

12. 役員選挙の実施

（本文中敬称略）

特別講演・シンポジウム申し込み要領

日本医師会認定産業医制度産業医学研修の生涯研修(3単位)を申請中です。

医師の方で単位取得希望者は下記要領にてお申し込みください。

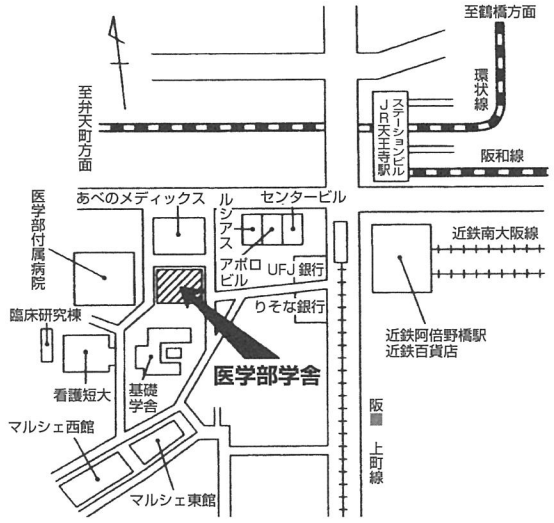
【申し込み方法】様式自由

①6月21日㈯　特別講演・シンポ参加希望、②氏名(ふりがな)、③連絡先住所・電話・FAX　④所属医師会名　⑤日本産業衛生学会員であることを明記

①から⑤を明記の上、日本産業衛生学会近畿地方会事務局あてに、

FAX(0744－22－1801)でお申し込みください。

地方会総会会場
大阪市立大学医学部学舎案内図



【受け付け開始】

5月22日㈭から開始し、定員(100名)になり次第締め切ります。

FAX受信時間帯　9時～17時(但し、土曜日および日曜日を除く)

【諾否の連絡】

受講票送付にて回答とし、お断り(定員超過)の場合はFAXでご連絡します。

※産業看護職継続教育実力アップ単位取得の申し込みは、当日産業看護部会受付で整理票を渡しますので、事前申し込みは必要ありません。

代議員の皆さまへ

総会の前に代議員会を開催いたします。

代議員の方はご出席下さい。

時　間：12：10～12：50

場　所：大阪市立大学医学部学舎4階　小講義室1

◎本ニュースに同封の「総会および代議員会出欠確認」用のハガキを**6月4日㈬必着**でご返送下さい。

昼食の準備はしておりませんので、予め済ませてご来場下さい。

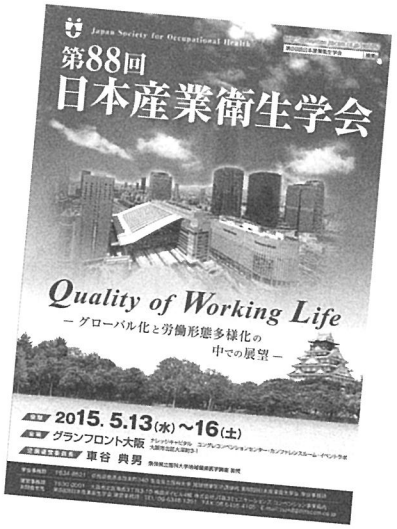
幹事の皆様へ

10：30～12：00に幹事会を開催いたしますのでご予定置きくださいませ。

謹　告

本年は本部及び地方会役員選挙の年です。平成25、26年の日本産業衛生学会年会費(1万円)が7月31日までに納入されていなければ選挙権・被選挙権が失効します。ご注意下さい。

第88回 日本産業衛生学会のポスターができました！



日本産業衛生学会近畿地方会 2013年度第4回幹事会

日　時：2014年2月25日　18：30 ～ 20：45
会　場：大阪市立大学附属病院　18階会議室1
出　席：車谷・清田・圓藤・久保田・山田・中島・宮上・伊木・伊藤・井上・大脇・河合・木村・島・鈴木・竹村・豊川・廣部・藤岡・森口
欠　席：岡田・北原・鮫島・中西・丸山・宮下・森岡
（順不同・敬称略）

1. 審議

1）平成25年度事業報告（案）⇒☞3 ～ 4ページ参照
資料に基づき車谷地方会長から報告があり、承認された。

2）平成25年度決算報告（案）⇒☞2ページ頁参照
資料に基づき決算書（案）の報告があり承認された。なお、本部の公益法人化にともない、科目の分類が変更になり、本部に報告する予算・決算報告は貸借対照表等もついた詳細な様式になっているが、一般会員には明細が理解しにくく、頁数も多くなるため、総会等での報告用には現在の様式を踏襲することも了解された。

3）平成26年度事業計画（案）⇒☞*5 ～ 6ページ参照
資料に基づき車谷地方会長から説明があり、承認された。

4）平成26年度予算（案）⇒☞2ページ参照
資料に基づいて清田副会長から説明があり承認された。正式承認は6月総会時であるが、それまでの間の暫定予算として運用することも了解された。

5）選挙管理委員会からの報告と提案
豊川選挙管理委員長から説明があり、意見交換がなされた。①監事と理事は兼任できない規定であるが、代議員による間接選挙で選出する理事よりも会員からの直接選挙である監事優先とし、監事に決まった方の名簿は理事候補には挙げないこととする。②同姓同名の被選挙人を区別する方法については本部に解決策を確認する。③理事の選挙方法は「理事の定数まで連記する」となっているが、最大連記数を定数より少ない人数とするか否かの意見に対し、選挙管理委員会で論議するとの返答があった。④電子投票導入を検討していることに対して、中央選挙管理委員会に電子投票を導入することについての正式承認を求めたいとの意見があり、確認することとなった。

2. 報告

1）第54回近畿産業衛生学会（11月15日）の進捗状況について伊木会長から報告があった。

2）近畿地方会総会（6月21日）の特別プログラム案について久保田担当理事から報告があった。

3）第88回日本産業衛生学会の準備状況
会期は2015年5月13日から16日、メインテーマは「Quality of Working Life―グローバル化と労働形態多様化の中での展望―」に決定したことの報告が車谷企画運営委員長からあった。

4）地方会ニュース発行状況とHP更新状況について
山田担当理事から、本年11月15日号は100号記念特大号として予定していること、HPは昨年リニューアルし、アクセス件数は昨年2万件から4万件と伸びていることの報告があった。

5）本部理事会の報告
資料に基づき圓藤本部理事長から説明があった。車谷会長から、池田会員が名誉会員の推挙を受け、河合幹事が学会奨励賞の表彰を受けることの追加報告があった。

6）その他
次回の幹事会は、6月21日㈯10時頃から、大阪市立大学医学部学舎で開催予定。

第15回 近畿臨床産業医学フォーラム報告

当番世話人：日生病院予防医学センター　藤岡　滋典

平成26年2月12日㈬、ANAクラウンプラザホテル大阪に於いて近畿地方会の研究会である第15回近畿臨床産業医学フォーラムが開催されました。今回は、日本高血圧学会から新しい高血圧治療ガイドラインが発表されることもあり「職域における高血圧対策」をテーマに取り上げ、83名の方に参加いただきました。

はじめに基調講演として、京都工場保健会診療所所長の武田和夫先生より「最新の高血圧管理と治療―2014高血圧治療ガイドライン改訂を踏まえて―」と題して、5年ぶりに改訂される高血圧治療ガイドラインの内容を解説いただくとともに、高血圧の管理・治療全般についての最新情報をご講演いただきました。ガイドラインの概要として、血圧値の分類、高血圧管理計画、血圧に基づいた心血管リスク層別化、種々のケースにおける降圧目標値、第一選択薬等の解説がありました。また、家庭血圧測定の重要性、血圧の日動変動、早朝高血圧、冬季の血圧上昇、脳卒中、認知症の危険因子としての高血圧、脂質異常症、糖尿病との関係等を詳細に説明されました。

後半のパネルディスカッションでは、「職域における高血圧の管理と産業保健スタッフの役割」をテーマに、パネリストとしてパナソニック㈱エコソリューションズ社本社健康管理室産業医の角谷学先生と三菱化学株式会社大阪支社業務部門の保健師岡田優子先生に登壇いただき、武田和夫先生にもコメンテーターとして討論に加わっていただきました。角谷先生は定期健康診断後の高血圧管理の流れを示されるなかで、健診事後フォローのハイリスクアプローチとして、二次性高血圧スクリーニングや頸動脈エコー、脈波検査等を用いた生活習慣改善へのモチベーションの向上への取組み等もご紹介いただきました。岡田先生からは、産業看護職としての立場から、健診後の保健指導、ポピュレーションアプローチや自己管理へのサポート等、従業員への健康支援方法について具体的に説明していただきました。全体討論では、高血圧の健診判定・管理基準、家庭血圧の活用、就業上の措置の実施状況、保健指導の方法、未治療者への対応等について話し合われましたが、会場の参加者からも多くの質問があり関心の高さが窺えました。

最後にお忙しいなか貴重なご発表をいただいた先生方、また事務局として労をおとりいただきましたMSD株式会社様に感謝の意を表します。

シリーズ 自己紹介

私たちの職場（29）

伊藤忠商事㈱大阪本社健康管理室

産業医　清原　達也

1.伊藤忠商事について

伊藤忠商事株式会社（以下、伊藤忠）は、1858年初代伊藤忠兵衛が麻布の行商で創業したことにはじまる総合商社で、現在は世界66ヶ国に約130の拠点を有し、繊維、機械、金属、エネルギー、化学品、食料、住生活、情報、保険、物流、建設、金融の各分野において国内、輸出入及び三国間取引を行うほか、国内外における事業投資など、幅広いビジネスを展開しています。

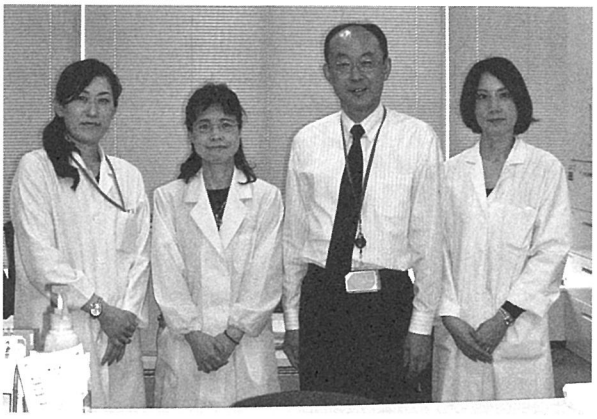
2.伊藤忠の健康管理体制

伊藤忠の国内事業所は９店（２本社（東京、大阪）、５支社、２支店）あり、大阪本社の健康管理を大阪本社健康管理室が、中部支社を中部支社健康管理室が、そして東京本社とその他の支社、支店を東京本社健康管理室が担当しています。また弊社のキャリアカウンセリング室では、CDA（Carrier Development Adviser）や産業カウンセラーの資格を持つスタッフ５名が社員のキャリアカウンセリングや転職支援、組織長支援、グループ企業支援などを行っており、定期面談やメール相談などで社員にメンタルヘルス不調が疑われた場合は、健康管理室やメンタルヘルスの専門家と連携しながら対応することになっています。

3.大阪本社健康管理室とその業務について

伊藤忠大阪本社はJR大阪駅ビル（ノースゲートビル）の21階～27階にあり、健康管理室（診療所を併設）は22階です。窓から淀川や周辺の商業施設が見渡せる絶好のロケーションで、下に降りるとそこはJR大阪駅とルクア/三越伊勢丹デパート、近くに阪神、阪急と大丸の梅田店、昨春にはグランフロント大阪も開業し、日々都心の賑やかさを満喫しています。大阪本社健康管理室の常勤スタッフは産業医である私と保健師２名、検査技師１名の合計４名です。他に非常勤で専門外来を担当する医師６名と臨床心理士１名が勤務されています。私は中部支社の診療所長も兼務しています。伊藤忠と丸紅㈱の合弁企業である伊藤忠丸紅鉄鋼㈱も、伊藤忠出身の社員が多く勤務し、伊藤忠健保組合に加入していることもあって、私が大阪支社の産業医を兼務し、社員は伊藤忠大阪本社診療所を利用されています。

大阪本社社員の各種健康診断は、診療所と外部委託施設（人間ドックと歯科）で実施し、健診結果は健康管理区分や産業医コメントとともにオンラインのデータベースで管理されています。大阪本社では２年に一回のペースで全社員に私が面談/保健指導を実施し、その際に希望者には無償で頸部超音波検査（頸動脈と甲状腺の評価）を実施しています。長時間勤務者面談、海外渡航者の保健指導（メールを通じての本人、家族の健康相談）なども随時行っています。また診療所では平日の午前と午後に内科外来診察やワクチン接種を行っています。診療科目は一般内科と専門外来（消化器、内分泌・代謝、循環器、血液）です。また週１回、臨床心理士がセルフケアのためのカウンセリングを行っています。



4.伊藤忠社員について

伊藤忠の社員（総合職）の多くは営業担当です。顧客との会食や職場の飲み会が盛んな社風のためか、すらりとしたイケメン男子も入社後に順調に体重が増えて、20年後には一般平均を超えるメタボ中年群を構成します。保健指導では若い世代に先輩を見習わないように警鐘を鳴らしていますが、最近では入社前からすでに脂質異常症や脂肪肝の学生が多いので先が思いやられます。

伊藤忠は商社の特性として海外赴任する社員が多く、感染症対策や海外での発病にも気を配らねばなりません。伊藤忠の社員が駐在する駐在都市は出向者のそれも入れると134都市あるそうですが、その中で労働環境が非常に悪い場所が５都市あり、それはハラーレ/テヘラン/カラチ/ジャンビ/ダッカです。熱帯ジャングルの中のゴム工場での一人駐在勤務、治安が悪く強盗に襲われる危険があるので車がないと外出できない事務所、インフラと医療施設の貧弱な感染症多発地域…。大気汚染のひどい中国はまだましな方とさえ思われます。昨年度に人事・総務部長がこれらの５都市を慰問した際に、岡藤社長の激励の色紙を手渡された駐在社員が涙した、というエピソードもありました。健康管理室としても、海外で奮闘している社員をしっかりバックアップしたいと思っています。　（文責：清原）

会員の声

「メンタル」について思うこと…

日本生命保険（相）
健康管理所
石神　眞人

メンタル疾患への対応が常に話題となる産業医学会であるが、今回のソチ冬季オリンピックでも、図らずも“メンタル”が注目された。森元首相の浅田真央選手に対するコメントである。発言自体はお立場を考えれば問題であるが、不本意な結果だったショートプログラムから、間をおかず滑ったフリーで見事な演技を見せたわけであるからメンタルが影響したことは否めないと思う。女子スキージャンプの高梨沙羅選手も圧倒的な実績をひっさげてオリンピックに臨んだが、いじわるな追い風（ジャンプでは不利な風）もあり、結果はご存じの通りである。

二人に共通するのは、結果にこだわってしまった点ではないか？浅田選手はショートに臨むとき、前回のリベンジを果たそうと気負いが生じてしまった。高梨選手の場合も、それまで口にしたことのない、「勝ちたい」という言葉をコーチに繰り返していたそうで、ワールドカップで連戦連勝していた時とはメンタルの状態が違っていたのは明らかである。高梨選手は心の中で「わ・た・し・の・ジャ・ン・プ・を・見・て・く・だ・さ・い」と唱えて踏み切るタイミングを計るそうである。しかし、「見てもらう」だけでなく「勝ちたい」と思った瞬間から、何か（脳内アミンのバランス？）が狂ってしまったのではないかと勝手な想像をしているのである。一方、金メダルに輝いた羽生選手には、自身被災者であり、被災地への思いという、勝負を超えた強い力があったのでは、とこれもまた勝手に合点している。

メンタルトレーニングの方法も発達してきているとは思うが、確立した方法はなさそうだ。ちなみにメンタルの影響が強いとみなされる先述のスキージャンプやスノーボードなどの競技では、運動自体にとってはむしろ不利な、心拍数および心拍出量減少作用を持つベータ遮断薬がドーピング規程に抵触する。ゴルフやアーチェリーも同様である。まさに「こころ」（心臓）をコントロールすることが能力のひとつであるとみなされるのである。

自分は強いメンタルを持って、頼れる医師・産業医として、冷静に、穏やかに患者さんに寄り添いたいと考えているが、いまだドキドキの毎日である。まだまだ道のりは遠そうだ。

「子育てを通して思うこと」

みずほフィナンシャルグループ
大阪健康開発センター
平田　真以子

時代の変化、流れの速さに驚き戸惑うことの多い毎日ですが、子育てを通しても時代の変化を実感しております。

私には中学生と小学生の娘がおります。2人は5歳違いですので、保育園へは11年間通いました。次女が卒園する時は、長い通園が感慨深く、涙を流しながら保護者代表（古株ママ）として謝辞を読みました。

長女が生まれた時は、7か月間の育休で時短勤務もありませんでしたが、家族と職場より大きな協力を得ることができました。職場の上司や同僚は、子供の発熱で突然休んだりする私をサポートして下さり仕事を続けることができました。私が出産する以前は、銀行も結婚すると寿退社…という雰囲気でした。

しかし育児・介護休業法が改正され、次世代育成支援対策推進法が施行され、子育て支援の流れが変わり、自分自身の周りでも変化が感じられました。時代の変化には法律が大きく影響することを実感しております。厚生労働省では2010年よりイクメンプロジェクトなども立ち上げられているようです。保育園の送迎も、長女の頃はパパの送迎は少なかったですが、次女が卒業するころは普通になっていました。布団などの大荷物を担ぎ、両腕に子供を抱えたパパや、抱っこひもが似合うパパも見られるようになりました。

この10年でみずほ銀行も育休・時短をとり女性が働くのが当たり前という社風に変わりつつあります。

…と、会員の声を書いていますと、2歳の男の子が亡くなる大変悲しく痛ましい、ベビーシッター事件が起こりました。日本の保育制度はまだまだ時代に追いついていないようです。育児に限らず、メンタルヘルス対策、高齢者雇用など様々な分野において、早い流れで変わっていきます。これらの変化の波に上手にのり、よりよい労働者支援ができるよう今後も学んでいきたいと思います。

会員の声

「職場のメンタルヘルス」の今後

大阪樟蔭女子大学大学院教授
精神科医
夏目　誠

今後、「職場のメンタルヘルス」はどうなるのだろうか。これからの産業精神保健の状況について、予見を述べたい。

産業ストレスの増大

世界的競争で、企業の多くは海外へ進出している。そのためのストレスはかなり大きい。また、「事業の選択と集中」が行われ、撤退の対象になった社員の悩みや深い。さらには、営業所などの統廃合がすすむ。それに伴い、女性を中心とした「適応障がい」が増加していく。

「若者」と「中高年者」のコミュニケーションギャップ

最近職場で目立つのは、「若者」と「中高年」とのコミュニケーションギャップである。いまの中高年は「ひとつの価値観」になじんだ人が多いので、多様化した若者の気持ちの理解が難しいようだ。「仕事は"そこそこ"、趣味や遊びに充実を求める」というスタイルへの反発も大きい。

家族機能の変化

最も顕著に進行しているのは、単身者の増加である。そうなれば、従来の家族が担っていたメンタルヘルス不調者の「早期発見やサポート」の力が低下するだろう。そのため、産業保健チームの対応が、従来よりも難しくなっていくだろう。

対応困難なケースの増加

今後のメンタルヘルスについて図にまとめた。現在増加しているメンタルヘルス不調は「現代型うつ病」や「パーソナリティー障がい」などである。薬があまり効かない上に、カウンセリングにも乗りにくい。しかも、「職場が悪い」や「上司が指導しない」などと"外罰的"に反応するので職場関係者は対応に苦慮している。

このように対応困難なケースの増加が予想される。

平成26年度　地方会第1回「産業精神衛生研究会」のお知らせ

日　時：平成26年５月29日㈭　18：30 ～ 21：00
場　所：薬業年金会館３階301号室（地下鉄「谷町六丁目」駅４番出口横）
後　援：関西産業健康管理研究協議会、大阪産業保健総合支援センター
参加費：2,000円（当日会場受付でお支払いください）
テーマ：「大人のアスペルガー症候群への対応－その３」
座　長：廣部一彦 先生（みずほフィナンシャルグループ統括産業医）

1．「事例から知る『働く人のアスペルガー症候群』」
　夏目誠 先生
　（大阪樟蔭女子大学大学院 教授、精神科医）
2．「大人のアスペルガー症候群への対応」
　正岡哲 先生（正岡クリニック、精神科医）
3．トークセッション
　夏目誠 先生VS正岡哲 先生

案　内：昨年、170名近い方が参加され、好評だった「大人のアスペルガー症候群」の対応の3回目です。今回は、大阪府で「発達障がい」について専門的に取り組んでおられる正岡先生を講師にお招きし、講演していただきます。また、夏目先生と正岡先生とのトークセッションで、対応について深めます。さらに、精神科クリニックへの受診の"コツ"についても、お話ししていただきます。多くの方々の参加を期待しています。

【お申込み・お問合せ】
おおさかメンタルヘルスケア研究所
（担当：有田、小畑、奥田）
TEL：06-6251-1929　FAX：06-6251-0930
メールアドレス：sanseiei@omci-clinic.com

第54回近畿産業衛生学会のお知らせ(第１報)

第54回近畿産業衛生学会を、平成26年11月15日㈯に近畿大学東大阪キャンパスにて開催します。

一般講演（午前）、特別講演、シンポジウム、懇親会（午後）などを予定しています。一般演題では、優れた演題の発表者に「近畿産業衛生学会優秀演題賞」が授与されます。また、若手研究者に対し、第54回近畿産業衛生学会若手奨励賞も設けます。

皆様のご参加と多数の演題申し込みをお待ちしております。

第54回近畿産業衛生学会
学会長　伊木雅之　　事務局長　甲田勝康
〒589-8511大阪狭山市大野東377-2
近畿大学医学部公衆衛生学
第54回近畿産業衛生学会事務局
Tel: 072-399-0221内3272、Fax : 072-367-8262
E-mail: kinkisanei2014@med.kindai.ac.jp

第19回 近畿産業医部会研修会

1．**日時**：2014年9月20日㈯　14：00 ～ 17：00
2．**場所**：大阪市立大学医学部学舎4階大講義室
3．**実行委員長**：古西満
4．**テーマ**：海外勤務者の安全と健康を考える
5．**内容**
＜基調講演＞
『海外勤務者の健康管理ＡＢＣ』：60分
講師：西山利正 先生（関西医科大学公衆衛生学）
座長：久保田昌詞 先生
（大阪労災病院勤労者予防医療センター）
＜シンポジウム＞
『海外勤務者の安全と健康を守るために』：110分
演者：辰巳嘉英 先生
（パナソニック健康保険組合　健康管理センター 海外医療対策室）
大西裕美 先生
（P&Gジャパンヒューマンリソーシズ　アジア・ヘルスシステム）
安藤裕一 先生
（インターナショナルSOSジャパンメディカルデパートメント）
座長：中西一郎
（東レ滋賀事業場健康管理センター）
古西満
（奈良県立医科大学健康管理センター）
6．**単位**：日本医師会認定産業医講習会として申請予定（３単位）

産業看護部会からのお知らせ

平成7年度、産業看護継続教育システムが構築され、システムに沿った教育が継続的に行われています。公益法人化にともないこれまでの教育システム、内容の見直しがおこなわれ、平成27年度から新システムによる教育制度がスタートします。今年度は、現教育制度から新システムへとスムーズに移行できるよう、また、教育内容について理解していただくために研修会開催時、ホームページを活用し、できるだけタイムリーに情報をお伝えしたいと思っています。

変動の年ではありますが、昨年に引き続き以下の3つの活動、①研修・懇談会の開催、②産業看護部会の見える化、③組織の活性化（産業看護部会員の増加にむけて）を推進していきます。

今年度も近畿産業看護部会活動に積極的にご参加いただきますよう心よりお願い申し上げます。

○平成26年度　第１回定例研修会のご案内
日　時：平成26年7月26日㈯　14時～ 17時
場　所：エル・おおさか南館5Ｆホール
テーマ：「働くがん患者への支援　～最新のがん治療と産業看護職の役割～」仮題
講師：井岡亜希子 先生
（大阪府立成人病センターがん予防情報センター企画調査課参事）
※最新情報は日本産業衛生学会近畿地方会ホームページでご確認ください。
http://jsohkink.umin.jp/b-ohn_seminar.html

○ホームページ更新について
研修・産業看護部会活動・入会方法等必要な情報を掲載しています。ぜひご覧になってください。

○産業看護部会入会のお願い
産業看護部会活動費：年2,000円
入会方法については、日本産業衛生学会近畿地方会ホームページ産業看護部会ご入会方法をご覧ください。
http://jsohkink.umin.jp/b-ohn_fees.html

技術部会からのお知らせ

平成25年度は２月９日「上手な会話とアナウンサーの職業」、「作業環境測定に用いられる測定器」につて討論会を開催しました。たくさんのご参加ありがとうございます。

平成26年度も、総会と講演会や研究会を計画しています。ご意見、要望をお待ちしています。

1)技術部会の会員になろうと思われる方
2)秘術部会の研究会への意見のある方
3)技術部会と共同（コラボ）研究会を実施して見ようと思われる各研究会の担当者
4)その他　技術部会への要望

などの御意見がありましたら下記にご連絡下さい。

世話役　河合　俊夫
Tkawai@jisha.or.jp

2014年4月21日新発売！
ソイジョイ
アーモンド&チョコレート
忙しいビジネスパーソンの間食にぴったりです。
ドライフルーツ不使用のSOY JOY第2弾！

商品特長
・さくっとしたローストアーモンドの食べ応えと香り豊かなチョコレートを練り込んだほど良い甘さ！
・栄養豊富な大豆をまるごと使用！※うす皮を除く
・大豆とナッツで腹持ちバツグン！
・1本（30ｇ）当たり146kcal
Otsuka 大塚製薬株式会社大阪支店
〒530-0005　大阪市北区中之島6-2-40
TEL：06-6441-6532

会員の異動（敬称略）

〈新入会員〉

長谷　真二	参天製薬㈱健康支援室
羽地　典子	カウンセリングルーム・灯り
皆川　玲	堅田病院
吉田　雅美	大阪大学大学院医学系研究科
笠原　亜弥	一財）近畿健康管理センター滋賀事業部
竹田　龍二	JR東海新大阪健康管理室
中平　健太朗	参天製薬㈱健康支援室
安原　亨	サラヤ㈱
山口　治子	大阪大学大学院工学研究科環境エネルギー工学専攻
伊藤　雅子	近畿健康管理センター
井上　清美	神戸常盤大学
大路　剛	神戸大学医学部感染症内科
杉原　えりか	日本通運㈱関西警送支店
大田　彩	日本電気㈱
蛭子　杏子	大阪市大健康科学イノベーションセンター
細岡　智恵子	㈱GSユアサ人事部健康管理グループ
藤原　美穂	㈱GSユアサ
石田　雅恵	公立神崎総合病院
阿部　美衣	サンスター財団サンスター診療所
北村　志郎	㈱カネカ
出口　裕彦	大阪市立大学医学部
福島　由賀	パナソニック㈱エコソリューションズ社健康管理室
丸本　典子	医社）東峰会関西青少年サナトリューム
山岡　由実	神戸市看護大学
浅田　早苗	パナソニック㈱オートモーティブインダストリアルシステムズ社
五熊　丈義	ヘルスアセットリサーチアンドマネジメント
垣中　洋子	京阪電鉄㈱枚方診療所
浅香　尚民	新コスモス電機㈱
中山　綾香	新コスモス電機㈱
髙橋　良典	新コスモス電機㈱

〈再入会員〉

吉田　悦美

編　集　後　記

気がつけばもう冬の衣を脱ぎ、桜の花と共に町は春めいた色のものが溢れています。編集後記を書いているのはまだ3月末です。明日からの消費税８％導入を前に、今は駆け込み需要で製造、販売、流通業がフル回転だそうです。この近畿地方会ニュースが発行されるゴールデンウイーク明けの頃ははたしてどうなっているのでしょう。消費税８％に慣れてきたでしょうか? 私たちは年度末と駆け込み需要景気が重なった時の激務で疲弊した社員のケアに奔走している…なんていうことの無いように祈っています。（鈴木純子）

編集委員（50音順）
河合俊夫・鈴木純子・竹村芳
中西一郎（広報事務局）・藤岡滋典
丸山総一郎・森口次郎
山田誠二（編集責任）